

英保守党党首選とジョンソン 前外相の経歴

メイ首相辞任と英保守党党首選

ブレグジットの混迷が続く英国のメイ首相は5月24日、6月7日に英与党・保守党の党首を辞任、後任の党首が決まる7月22日の週をもって英国の首相からも退く意向を表明しました。

ブレグジットを巡って、メイ首相がEUと合意した離脱協定案は、英下院で3度にわたって否決され、野党・労働党との歩み寄りも不調に終わり、メイ首相は「新しい首相がブレグジットを実現させることが国益にかなう」とし、首相としての3年間を終え、次期首相にEUからの離脱を委ねる決断を下しました。

メイ首相の後任を選出する保守党党首選は、6月10日に立候補者を締め切り、最終的に10人が名乗りを上げました。13日より、保守党下院議員による投票が実施され、得票数下位の立候補者は脱落となり、2人まで絞り込まれます。

強硬離脱派からは、ジョンソン前外相、ラーブ前EU離脱担当相、マクベイ前雇用・年金相、レッドソム前下院院内総務の4名が立候補。穏健離脱派からは、ハント外相、ゴープ環境相、ジャビド内相、ハンコック保健相、スチュワート国際開発相、ハーバー議員の6名が立候補し、EU残留派の議員の立候補はゼロとなりました。

【国会議事堂前でEU残留を訴える人々】

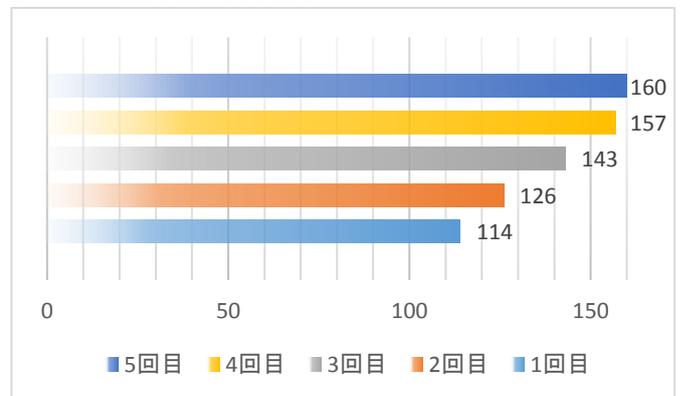


英保守党党首選の状況

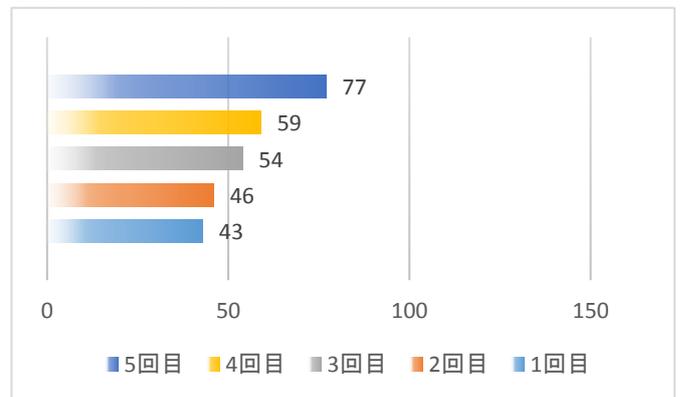
13日に1回目の投票が行なわれ、レッドソム前下院院内総務（11票）、ハーバー議員（10票）、マクベイ前雇用・年金相（9票）が脱落、残った7人の中でジョンソン前外相がトップの114票を獲得しました。

2回目の投票前にハンコック保健相は辞退、18日の2回目の投票でラーブ前EU離脱担当相が脱落、19日の3回目投票ではスチュワート国際開発相が脱落、さらに4回目投票でジャビド外相が、5回目投票でゴープ環境相が脱落し、20日段階でジョンソン前外相とハント外相の2人に絞られました。

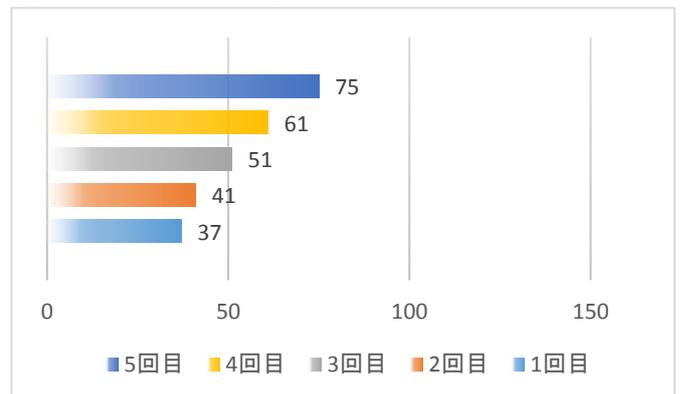
【ジョンソン前外相の得票数】



【ハント外相の得票数】



【ゴープ環境相の得票数】



ジョンソン前外相はどんな人物？

ジョンソン前外相は、1回目の投票から大差でのトップを堅持、5回目の投票では保守党議員 313 人の過半数の 160 票を集め、次の英国首相の座を確固たるものにしつつあります。

ジョンソン前外相は 2008 年から 2016 年まで 8 年間、ロンドン市長を務め、金髪のぼさぼさ頭の少々だらしくも見える風貌とともにその知名度は極めて高い人物です。英国の世論調査によると、ジョンソン前外相は最も人気が高いと同時に、最も嫌われている政治家でもあります。

ジョンソン前外相は、1964 年、後に欧州議会議員となる父とアーティストの母のもとニューヨークで生まれました。幼少の頃に一家で英国に戻り、上流階級に属する富裕な家庭で育ちます。名門校イートンからオックスフォード大学に進学。

研修生として勤務した英新聞紙「タイムズ」では、コメントを捏造したことで解雇されてしまい、後に「フェイク・ジャーナリズムの先駆」と呼ばれるようになります。その後、「デイリー・テレグラフ」誌の記者となり、欧州特派員時代には欧州懐疑派論者としての記事を多数執筆しています。

2001 年には、下院議員に初当選。雑誌の編集長や新聞のコラムニストも兼任しながら議員として実績を積んでいきます。

2008 年、保守党の支持を受けたジョンソン前外相は、ロンドン市長選に当選。2012 年には再選し、この年の夏に開催されたロンドンオリンピック・パラリンピックの大成功を収めます。犯罪の抑止や住居環境の改善、交通機関の改善にも功績を残し、有名な交通機関の取り組みの一つは、2010 年 7 月に導入された、いわゆる "ポリスパイク" サイクルスキームで、ロンドン市内のレンタルサイクルの利用人数は累計で年間 1,030 人に達したといわれています。

ロンドン市長を 2 期 8 年間務めた後、2015 年の下院選に再び出馬し、当選。

ブレグジットの行方は？

2016 年 6 月、キャメロン前首相が EU 加盟の是非をめぐる国民投票を実施、EU 離脱支持が 51.9%、EU 残留支持 48.1% をわずかに上回り、ブレグジットが決定しました。

ジョンソン前外相は離脱支持キャンペーンを主導し、離脱運動公認組織「ボート・リーブ」の中心となり、「英国を自分の手に取り戻そう」と国民に呼び掛けました。このキャンペーンにおいてジョンソン前外相は、却下こそされたものの、EU に毎週 3 億 5000 万ポンド（約 478 億円）を支払っているという虚偽の情報を拡散したとして民間の活動家に私人訴追されています。

ブレグジットが決定すると、残留派を主導したキャメロン前首相は辞任表明、保守党党首選が始まり、この時も最有力視されていたのはジョンソン前外相でした。しかしながらジョンソン前外相への支援を表明していたゴープ環境相（当時は司法相）が党首選に名乗りを上げたためやむなく出馬を見送っています。

その後、保守党党首に選出されたメイ首相が、新内閣を組閣し、ジョンソン前外相を外務・英連邦大臣に登用しました。ただし、外相としての外交手腕や成果面での評価はいまひとつで、2018 年 7 月には、メイ首相の穏健な EU 離脱方針に反発し外相を辞職しています。

ジョンソン前外相は、メイ首相と EU との間で合意した離脱協定案を、EU との再交渉により修正する意向を示していますが、アイルランド国境問題への具体的な解決案は示されておらず、何より EU 側は再三にわたり、「離脱協定案の再交渉はない」と明言しています。

それでも「EU と合意できなくても 10 月末に離脱する」と、合意なき離脱も辞さない姿勢を貫いています。ハント外相との保守党党首選での優位は揺るぎそうになく、10 月末の合意なき離脱のリスクは高まっています。

以上

本レポートは情報提供のみを目的として作成したものであり、何らかの行動を勧誘するものではありません。
ご利用に関しては、すべてお客さまご自身でご判断くださいますよう、よろしくお願い申し上げます。
本レポートは信頼できると思われる情報に基づいて作成していますが、当行はその正確性を保証するものではありません。
本レポートのご利用によりお客さまがいかなる損失、損害を受けられても当行は一切の責任を負いません。
本レポートはお客さま限りでご利用くださいますようお願いいたします。